

11月27日からの実施に向けて

新しい「ミサ式次第」の 変更箇所の確認と解説

大分教区典礼研修会
2022年9月17日(土)

『ローマ・ミサ典礼書』ラテン語規範版

① 第2バチカン公会議(1962～65年)

『典礼憲章』(1963年)公布

§ ラテン語から諸国語への翻訳が可能

→ 教皇庁典礼秘跡省の認証が必要

② 1970年 3月 ラテン語規範第1版

③ 1975年 3月 ラテン語規範第2版

④ 1978年12月(暫定認可)

日本語版の現行の『ミサ典礼書』

44年ぶり『ミサ典礼書』の改訂

- ⑤ 2002年 2月ラテン語規範**第3版**
- ⑥ 2021年5月（聖霊降臨）
新しい「ミサの式次第」の認証
- ⑦ 2022年11月待降節第1主日より
新しい「ミサの式次第」実施開始

二つの目で見ると

①ミサの流れや意味を
もう一度考えながら、

②変更箇所を理解する。

「ミサの式次第」の構造

①開祭

②ことばの典礼

③感謝の典礼

④閉祭

開祭

会衆にかかわる
変更箇所

開祭の意図

①集う(主を迎える)

入祭の歌 入祭のあいさつ

②準備(主と兄弟姉妹と一つになる)

回心の祈り いくしみの賛歌

③祈りに入る(主を通して)

栄光の賛歌 集会祈願

入祭のあいさつ

司祭：...（主は）皆さんとともに

会衆：またあなたとともに



①聖書的なあいさつのことば

→ ルツ記 2・4 ルカ1・28

②司祭:「...(主は)皆さんとともに」

§ 集いの中に主が(マタイ18・20)

③会衆:「またあなたとともに」

§ 叙階の秘跡を受けた奉仕者の中に
従来、神・イエスに「あなた」を使用

→司教・司祭・助祭にも「あなた」



イエスを迎える(祭壇・ろうそく)

司祭:「...(主は)皆さんとともに」

会衆:「またあなたとともに」

→ 意図的な対話句の配置

① 入祭のあいさつ

② 福音朗読の前

③ 奉献文への導入

④ 派遣の祝福の前に

→ ミサは主イエスの行為である

回心の祈り

① 回心の祈り 三つの形式

§ 誰に向かっているのか？

(一)「全能の神と兄弟姉妹の皆さん...」

→ 神と聖徒の交わりにある兄弟姉妹

(二)「主よ、あわれみを」 → キリスト

(三)「...主よ(キリスト)、...」 → キリスト

(季節毎の選択肢がある → 応答は同じ)

② 「いつくしみの賛歌」への連続

いつくしみの賛歌①

先唱 主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

先唱 キリスト、いつくしみを。

会衆 キリスト、いつくしみをわたしたちに。

先唱 主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

§ いつくしみ深いキリストを賛美するという
側面を強調するため「いつくしみ」へ変更。

いづくしみの賛歌②

先唱 キリエ、エレイソン。

会衆 キリエ、エレイソン。

先唱 クリステ、エレイソン。

会衆 クリステ、エレイソン。

先唱 キリエ、エレイソン。

会衆 キリエ、エレイソン。

§ ギリシア語の発音そのままラテン語へ

ラテン語 → そのまま日本語へ

栄光の賛歌

① 天には神に栄光、

§ Gloria in excelsis Deo.

現 天のいと高きところには 神に栄光

→ 天には神に栄光 「栄光の賛歌」

天には神にホザンナ 「感謝の賛歌」

天におられる 「主の祈り」

§ 地にはみ心にかなう人に平和

現 「善意の人」 → ルカ2・14 キリスト

§「わたしの名によって父に願いなさい。」

イエスさまの命令(ヨハネ15・16)

①集会祈願の結び(長い形式)

「聖霊による一致のうちに、
あなたとともに神であり、
世々とこしえに生き、治められる御子、
わたしたちの主イエス・キリストによって。」

②奉納祈願・拝領祈願(短い形式)

「わたしたちの主イエス・キリストによって。」

ことばの典礼

会衆にかかわる
変更箇所



ことばによる心の交流

「ことばの典礼」の意図

① 神(キリスト)のことばを聞く

第一朗読、第二朗読、福音

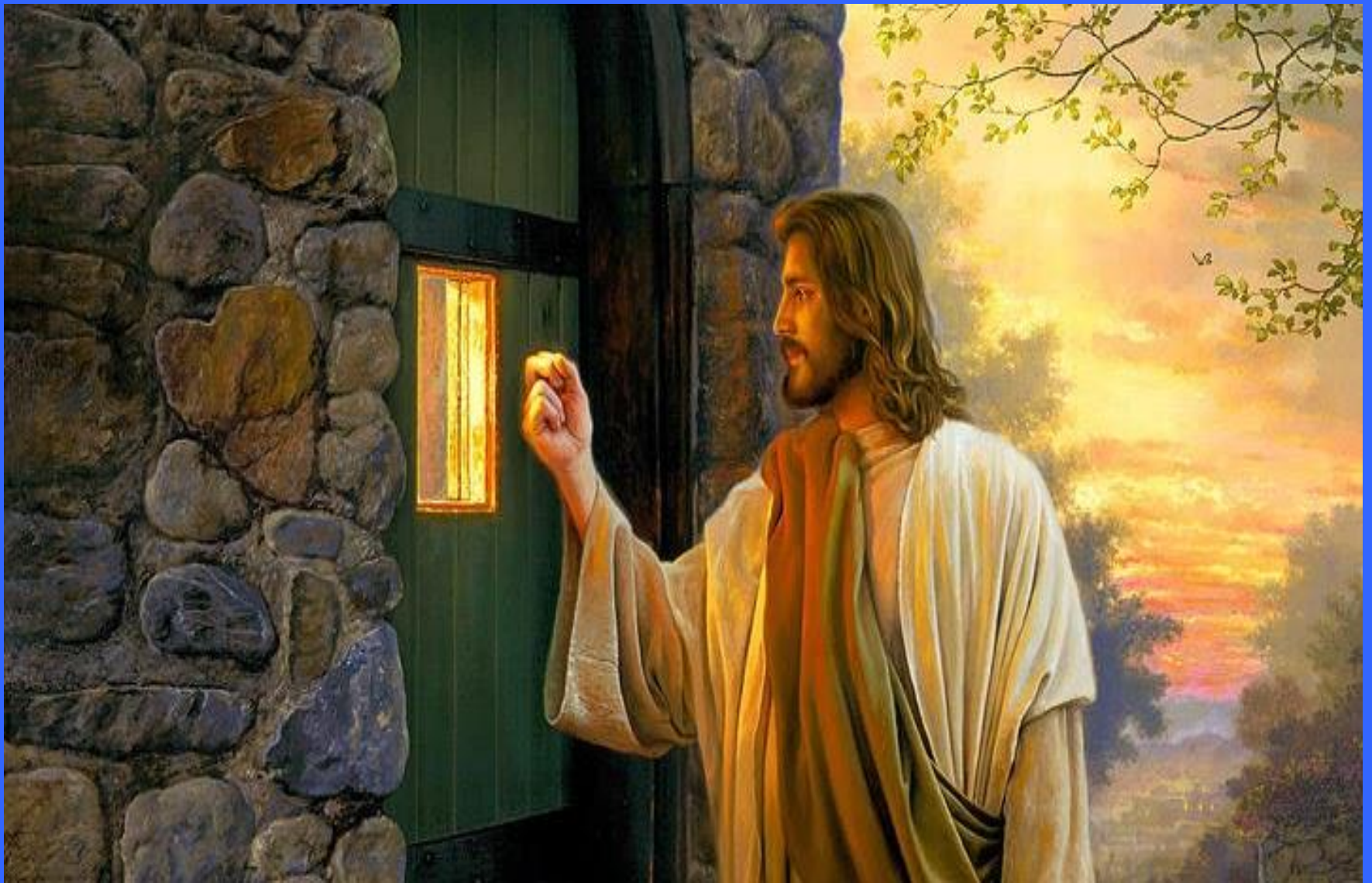
② 黙想する

朗読後の沈黙、(答唱)詩編

③ 応答する

答唱(詩編)、信仰宣言、共同祈願

アレルヤ唱(主を迎える)



心の扉をたたく主（黙3,20）

朗読後の応唱

① 第一朗読（＋第二朗読）

→朗読者は手を合わせてはっきりと唱える。

「神のみことば」：「神に感謝」

→続いて朗読者は聖書に一礼して席に戻る。

一同は沈黙のうちに、神のことばを味わう。

② 福音朗読後

「主のみことば」：「キリストに賛美」

福音朗読前の十字架のしるし

§ 福音を朗読するのは、助祭の務め

助祭叙階式の中で、福音を朗読する

務めを受ける助祭に福音を授ける言葉

「キリストの福音を受けなさい。あなたは

この福音を告げる者となりました。

読んだことを信じ、信じたことを教え、

教えたことを実行してください。」

信仰宣言

§ 信条(信仰箇条)は福音の要約である。

§ 頭を下げる動作 → 受肉の神秘を示す

① ニケア・コンスタンチノーブル信条

「...聖霊によって、おとめマリアより
からだを受け、人となりました。」

② 使徒信条(ローマ教会の洗礼信条)

「主は聖霊によってやどり、
おとめマリアから生まれ」

感謝の典礼

会衆にかかわる
変更箇所



最後の晩餐（洗足＋聖体の秘跡）

「感謝の典礼」の意図

①取る

奉納の歌・行列・供える・奉納祈願

②感謝をささげる

奉献文(エウカリスティアの祈り)

③裂く

主の祈り...平和の賛歌・パンの分割

④与える

拝領前の告白・聖体拝領・拝領祈願

奉納祈願の前の応答

§ これまで、応唱は任意となっていたが、
これからは、必ず唱える。

司祭：「...ともにささげるこのいけにえを...」

会衆： → **重要な心構え**

「神の栄光と賛美のため、
またわたしたちと全教会のために、
あなたの手を通しておささげするいけにえを、
神が受け入れてくださいますように。」

奉献文の叙唱前句

§ 三組の対話句

司祭： 主は皆さんとともに

会衆： またあなたとともに

司祭： 心をこめて

会衆： 神を仰ぎ、

司祭： 賛美と感謝をささげましょう。

会衆： それはとうとい大切な務めです。

§ 「ともにささげる」心構えを促す。

感謝の賛歌

§ イザ6・3b 聖性の源である神から

聖なる、聖なる、聖なる神、

すべてを治める神なる主。

主の栄光は天地に満つ。

§ マタ21・9b 主のエルサレム入城を歓迎

祭壇上に来られる主を歓迎

天には神にホザンナ。

主の名によって来られる方に賛美。

天には神にホザンナ

聖別(聖変化)のために

§ 第二奉獻文を例に

司祭は、主キリストと結ばれて祈る

① 聖霊の働きを願う祈り

すべての聖性の源である父よ、
今、聖霊によってこの供え物を……

② 最後の晩餐のときの主のことば

パンを取り……これはわたしのからだ
杯を取り……これはわたしの血の杯

奉献文の中の応唱

司祭： 信仰の神秘

会衆（3つの応唱）

§ ミサの中で聖別されたパンとぶどう酒に
現存される主への賛美（聖体賛美）

§ 3つの応唱の活用（一例）

- ① 復活節十年間（一例）
- ② 待降節十降誕節（一例）
- ③ 四旬節（一例）

イエスの死(与えつくす愛)→聖体



イエスの復活(永遠に続く愛)





聖体拝領（イエスの再臨）

交わりの儀

§ 主の祈りの後 → 父である神に

司祭: いくしみ深い父よ.....

世界に平和をお与えください。

会衆: 国と力と栄光は永遠にあなたのもの。

§ 教会に平和を願う祈り → キリストに

司祭: ...教会に平和と一致をお与えください。

あなたはまことのいのち、すべてを
導かれる神、世々としえに。

会衆: アーメン。

平和の賛歌

世の罪を取り除く神の小羊、

いつくしみをわたしたちに。

世の罪を取り除く神の小羊、

いつくしみをわたしたちに。

世の罪を取り除く神の小羊、

平和をわたしたちに。

(パンを裂くために時間がかかる場合、何度か繰り返すことができる。)

拝領前の信仰告白

会衆：主よ、わたしはあなたをお迎えするに
ふさわしい者ではありません。

おことばをいただだけで救われます。

(マタイ8・8 百人隊長のことば) →謙虚さ

会衆：主よ、あなたは神の子キリスト、
永遠の命の糧、あなたをおいてだれの
ところに行きましょう。

(ヨハネ6・68 ペトロの信仰告白) →積極さ

閉祭

会衆にかかわる
変更箇所

閉祭の意図

①生活に向けて

§ お知らせ

②派遣される

§ 派遣の祝福

§ 閉祭のことば

③イエスとともに



イエスと一緒に出かける

司教による祝福の前に

司教：主は皆さんとともに。

会衆：またあなたとともに。

司教：主のみ名がいつもたたえられますように。

会衆：いまよりとこしえに。

司教：主のみ名はわたしたちの助け。

会衆：主は天地の造り主。

司教：全能の神、

父と十子と十聖霊の祝福が.....

結びの祝福と会衆のための祈願

§ 荘厳な祝福

(通常の結びの祝福の前に

三つの祝福のことばが唱えられる)

§ 会衆のための祈願

(通常の結びの祝福の前に一つの

会衆のための祈りが唱えられる)

質問コーナー



終わり